

阪大接合研

第14回産学連携シンポジウム開く

新シーズをテーマに3講演

大阪大学接合科学研究所(南二三吉所長)は5月24日、大阪市北区の同大学中之島センターで第14回「産学連携シンポジウム」を開催(大阪商工会議所、生産技術振興協会共催)し、145人が参加した。

冒頭、南所長は「当研究所は溶接や接合科学における強みに磨きをかけるべく、組織の見直しを実施。『接合プロセス研究』『接合機構研究』『接合評価研究』の各部門と『スマートプロセス研究センター』がそれぞれの役割を果たしながら、産学連携で共同研究を行っている。当シンポジウムもその一環として企画するもので、新しいシーズをテーマに変えるため様々な意見交換を行いたい」と挨拶した。



南所長



産学連携シンポ

新シーズに関する講

演では「鉄鋼材料を溶かさず、変態させないで接合する—いくつかの摩擦接合」と題して同研究所の藤井英俊教授が講演。「微粒子ペーリストを用いた3Dプリンティングならびに2Dコーティング」と題して、同研究所の桐原聡秀教授が講演。

「粉碎機を利用したりチウム二次電池用電極材料の合成」と題する講演では、同研究所の小澤隆弘助教が、近藤光特任研究員、内藤牧男教授との共同による研究成果を説明した。

産学連携活動に関しては「産学連携による先進接合技術の開発」

「溶接ニュース 2017年年6月27日(産報出版株式会社)」より(掲載許可取得済み)

と題して同研究所の中谷光良特任准教授が講義。北側彰一招聘教授とともに進める研究成果を示した。

果として、厚板に対する大出力レーザ溶接技術が実用レベルに達したことを示した。